

2021年4月26日

三鍋敏郎

霊仙山のヤマシャクヤクは、昨年5月中旬頃に訪れた、ちょうど最盛期だったので参加者は歓声をあげて喜んでいた。

今年の桜は例年より二週間も早かったので、霊仙山のヤマシャクヤクも早く咲くのではないかと2週間ほど早く訪れてみたのだが。

落合の駐車場にはすでに数台の車が停まっており、何組かの登山者たちが西南尾根を目指して出発して行った。

私達は時計回りで汗拭き峠から山頂を目指し暗い大洞谷を北上する。杉などの植林地の中の林道歩きが暫く続く。ナツトウダイの花が咲いている。道は林道から左の斜面を登るようになり急斜面を上がると汗拭き峠に着く。峠から、尾根歩きになる。ミスミソウの三角の葉っぱが点在している。快適な自然林の尾根を越えると急斜面の登りになる、見上げるとヤマシャクヤクの花が咲いているのが見えたが、登山道から離れていたのでは近づけなかった。

道が緩やかになった5合目手前の斜面奥に群落があるが、残念ながら開花前のピンポン玉のような状態で、開花株は見られなかった。しかし、ヒトリシズカの白い清楚な花を見ることができた。



5合目から暫く進むと美林となるが、急斜面につづら折れの登山道が続いている。登りきると展望が開けすみれの咲く草原地帯になる。振り返ると琵琶湖が一面に広がり、比良連峰や比叡山の山並みが美しい。この草原は、数十年前には灌木や深い笹に

覆われて山肌が見えることは全く無かったのだが、現在は荒野のように荒れ果て見るも無残な山容で目を覆いたくなる有様である。温暖化と鹿などの食害が進み今後も荒廃が進むものと思われる。

お虎ヶ池も剥き出しの野池に変わり神秘的なイメージは消滅しており、カエルの黒いおたまじゃくしが無数に泳いでいる。モリアオガエルが産卵のために上れる木は周囲には全く存在しない。

久しぶりに一般道を歩いて山頂を目指したが、ニリンソウやイチリンソウ、エンゴサクの群生も栄養不良で萎縮気味。コバイケイソウも水分が足りないのか僅かな群生地になっている。山肌を吹き抜ける風が冷たいのでウインドブレーカーを羽織る。山頂には数人の若者がいた。有名な山には若者が多く訪れるようになったが、昔の風景を知る由も無い。強風のせいで白山連峰や御嶽山が美しく見えている。360度の大展望を楽しみ、

山頂の風下でランチタイム。辺りはニリンソウの群生地環境に合わせて見事に小ぶりの花を咲かせている。

食事後、最高点ルートを通り、西南尾根を目指して下山。山頂から南に下り、標高 1036m の尾根に出る。この辺りから石灰岩が多く歩きにくいカルスト地形になる。岩の間にはスミレなどの花が咲いている。

近江展望台を越えると道は下り始める。石灰岩の重なる登山道を慎重下ると、笹峠の手前の広場に出て休憩していると、S 女史にウラシマソウがあると告げられ引き返して写真を撮った。

自然林に囲まれた穏やかな尾根を下り、笹峠から霊仙集落に向かう。新緑が逆光に眩しく輝いて美しい。杉の植林地の下りになると廃村霊仙の集落に出る。村の共同水槽には冷たい湧き水が溢れている。クリソウの群生地がますます広がったような気がする。

道路に出ると、ヤマキケマンや、コンロンソウなどの花が多く見られる。朝の駐車地に戻ると、帰り支度の登山者が何組かいる。

登山口 9:07～汗ふき峠 9:34～山頂 11:37 発 12:12～近江展望台 13:07～登山口 14:50